



理事長挨拶 学会活動の新たな展開に向けて

理事長 守田 美奈子

第8期の理事長を拝命致しました守田と申します。新しい理事の先生方と共に、これから活動して参りますので何卒よろしくお願い致します。

令和2年に役員選出規定が改正され、地域単位の選出人数に加え、教育あるいは病院等臨床の所属機関による選出人数の規準が導入されて初めての選挙となりました。

日本赤十字看護学会の会員の皆様は、病院等の医療機関、大学や専門学校等教育研究機関、地域の訪問看護ステーションや福祉施設など、多様な場で活動されておられます。今回の選挙規定の改正は、多様な組織に属しておられる会員の皆様の声を反映でき、会員のニーズに即した活動を展開できるための組織編成をめざしたものです。

今回の選挙制度の改正によって、赤十字の理念に基づく看護の実践と教育、研究の融合を図り、さらに発展できる学会の基盤が強化されました。今期の理事会では、この目的に即した活動をさらに展開していきたいと考えています。

第8期の取り組みとしては、これまでの委員会活動をより活発に展開し、看護実践、教育、研究が循環できるよう尽力したいと考えております。

「実践に根差した知の発展」という本学会のテーマ通り、赤十字の思想に基づく実践を知として形成、蓄積し、教育や実践の場で検証し、知を発展させる循環をつくることに寄与できる活動を行っていきたいと考えています。

さらに、第7期の将来構想委員会で提示された学会運営の経済基盤の安定化や法人化などの組織体制の充実化に向けた検討を行います。安定的で継続的な組織運営にむけて、財政基盤の充実には欠かせない課題と認識しています。さらに、将来構想委員会で示された「臨床と教育との連携の推進」や「若手会員の関心を高めるための取り組み」、「赤十字看護学会の特徴をより強化するための取り組み」等の今後の課題に対し、学術集会・総会や学会誌の発行を中心とする学会活動全般を通して、具体的な検討を進めていきたいと考えています。

新型コロナウイルス感染症の蔓延や自然災害等により、社会全体が未来を見通しにくい状況に置かれています。このような時代だからこそ、humanityという思想を共有し、看護の専門分化を超えて、humanityを基盤にした看護を追求する共同体としての結束を強め、日本社会、国際社会にも貢献できるような活動を展開していきたいと考えています。

副理事長挨拶

副理事長 井部 俊子

今期、理事に選任され副理事長を引き受けることにいたしました。私は、2009年から2015年まで2期にわたり理事を務めました。理事として、臨床看護実践開発事業委員会の委員長を担い、交流集会などの活動をまとめて『認知症高齢者の世界』（日本看護協会出版会、2015年）を上梓いたしました。さらに、さかのぼること2000年の学会設立時から4期にわたり評議員をしていたと事務局におしえてもらいました。

その後、職場が長野保健医療大学に変わり、長野県の日赤関連病院が学生の主要な実習施設となりました。日赤看護学会の活動に久しぶりに参画することを楽しみにしています。

理事挨拶

各理事・指名理事・監事

伊藤 明子（国際活動委員会委員長）

このたび、理事を拝命いたしました日本赤十字国際看護大学の伊藤明子です。2020年度末までは名古屋第二赤十字病院の副院長兼看護部長として臨床の現場と国内外の災害・国際救援活動に従事しておりました。

日本赤十字看護学会の理事として、国際活動委員会を担当させていただきます。赤十字の人道の原則のもと、誰一人取り残さないというSDGsの世界共有の目標とともに、グローバル・ヘルスに寄与できるように尽力してまいります。よろしくお願いいたします。

大林由美子（歴史研究委員会委員長）

このたび、理事を拝命いたしました山口赤十字病院の大林と申します。歴史研究委員会ではHP上に会員専用ページを開設し、赤十字の看護の歴史を身近に感じられるよう関連の資・史料（建築物や絵画を含む）を所蔵する施設や関連文献を紹介しています。赤十字の看護の歴史に関する議論の場として、学術集会でのテーマセッションの企画もしています。

本年度から新たなメンバーと共に赤十字の看護の歴史に触れ、後世に紡いでいけるよう活動を続けてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。資・史料に関する情報提供もお待ちしております。

鎌倉やよい（渉外担当理事）

今期から、渉外を担当する日本赤十字豊田看護大学の鎌倉やよいです。渉外の役割は、当学会の活動がより効果的なものとなるよう、関係団体、関係機関との連携・調整を行うことです。2020年度に引き続き、関係団体として、日本看護系学会協議会、及び看護系学会等社会保険連合（看保連）を中心に対応して参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

川上 潤子（臨床看護実践開発委員会委員長）

今期、理事を拝命いたしました日本赤十字社医療センターの川上潤子と申します。微力ではありますが、学会の発展にむけて取り組んで参りたいと思います。皆さまどうぞ宜しくお願い申し上げます。

佐々木敦美（災害活動委員会委員長）

この度、理事をお引き受けすることになりました北見赤十字病院の佐々木です。災害看護活動委員会を担当いたします。委員会の目的は「災害時の調査活動や学会・セミナー等を通して、災害看護に関する「経験知」を「形式知」として共有し、災害看護の発展に資する」ことです。臨床での経験を学会活動に活かせるよう理事としての役割を果たしてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

佐々木幾美（研究活動委員長）

今期から研究活動委員長を担当することになりました日本赤十字看護大学看護学部の佐々木幾美です。研究活動委員会は、会員の皆様の研究活動を促進し、看護の質の向上と看護学の発展に寄与することを目的としております。研究活動に関する会員の皆様のご意見、ご要望を反映して、本学会の特徴である実践に根差した研究活動を支えられるような取り組みを行っていきたくと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

田村 由美（編集委員会委員長）

今期から編集委員会委員長を務めます。どうぞよろしくお願いいたします。

学会の役員の仕事もさることながら、編集委員の仕事は、会員の皆様の研究や実践の成果を、適切に査読審査し、できるだけ早く広く公開してお届けすることだと思い、初めて尽くしの仕事内容に緊張しています。編集委員のメンバーも多くなっていますが、皆で協力して充実した学会誌にしていきたいと思います。会員の皆様からの投稿をお待ちしております。

原 玲子（広報委員会委員長）

今期から、広報を担当する日本赤十字秋田看護大学の原 玲子です。広報の役割は、当学会の活動がより効果的なものとなるよう、学会ホームページの維持管理、会員相互の最新情報をお伝えするニュースレターの発行です。より見やすく、情報をキャッチしやすい広報活動になるように努力したいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

安部 陽子（指名理事）

今回、会計を担当させていただくことになりました安部陽子です。初めての経験ですので、前に会計を担当された江本リナ先生からお仕事の内容をご教示いただき、また他の理事の方々にご指導いただきながら務めさせていただきたいと存じます。多様な課題について研究発表・意見交換できることが、日本赤十字看護学会の魅力だと感じております。変革期における学会活動に携わることができて光栄です。どうぞよろしくお願いいたします。

喜多 里己（指名理事）

この度、庶務を務めさせていただくことになりました、日本赤十字看護大学さいたま看護学部の喜多里己です。本学会のさまざまな事業や活動が円滑に運営されるよう、理事の先生方にご指導いただきながら務めさせていただきたいと存じます。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

小森 和子（監事）

監事として2期目をお引き受けすることになりました小森です。
2018年3月に日本赤十字社を退職し、現在は愛知県一宮市にあります総合大雄会病院で看護管理者として勤務しています。民間の医療法人の病院としてできる限りコロナ陽性患者の受け入れを行っておりますが、日本赤十字社の様々な取り組みが大きな支えとなっております。本学会運営が目的に即して適切に実施されるように、監事として務めていきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

田中 孝美（監事）

第8期の監事を拝命いたしました。本学会の設立より22年目を迎え、変化する社会情勢において、学会設立の趣意に改めて思いを致し、微力ながら本学会の運営に役割を果たしたく存じます。また、第7期理事会の将来構想委員会においてなされた、現状整理と今後に向けた論点を引継ぎ、長期的展望をふまえた議論に貢献できるよう努めます。
どうぞよろしくお願いいたします。

理事・指名理事・監事・評議員・委員会名簿

（五十音順）		日本赤十字看護学会 評議員名簿 （任期2021年総会～2024年総会）		（五十音順）	
理事		氏 名	所 属	氏 名	所 属
【理事長】	日本赤十字看護大学	秋江百合子	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院	谷口 理恵	庄原赤十字病院
守田美奈子		阿部オリエ	日本赤十字九州国際看護大学	田村 由美	日本赤十字広島看護大学
【副理事長】	長野保健医療大学	天舄 成子	大森赤十字病院	近森 清美	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院
井部 俊子		池田 美里	日本赤十字社医療センター	力石 陽子	学校法人日本赤十字学園法人本部
伊藤 明子	日本赤十字九州国際看護大学	伊藤 明子	日本赤十字九州国際看護大学	筒井真優美	日本赤十字看護大学名誉教授
大林由美子	山口赤十字病院	井部 俊子	長野保健医療大学	内木 美恵	日本赤十字看護大学
鎌倉やよい	日本赤十字豊田看護大学	井本 寛子	日本看護協会	中川 典子	京都第二赤十字病院
川上 潤子	日本赤十字社医療センター	大林由美子	山口赤十字病院	中田 康夫	神戸常盤大学
佐々木敦美	北見赤十字病院	大和田恭子	日本赤十字社幹部看護師研修センター	中根 直子	日本赤十字社医療センター
佐々木幾美	日本赤十字看護大学看護学部	尾山とし子	日本赤十字北海道看護大学	中村 光江	日本赤十字九州国際看護大学
田村 由美	日本赤十字広島看護大学	鎌倉やよい	日本赤十字豊田看護大学	野地 啓子	元福島赤十字病院
原 玲子	日本赤十字秋田看護大学	川上 潤子	日本赤十字社医療センター	橋添 礼子	大津赤十字病院看護部
指名理事		川嶋みどり	日本赤十字看護大学名誉教授	原 玲子	日本赤十字秋田看護大学
安部 陽子	日本赤十字看護大学看護学部	川西 美佐	日本赤十字広島看護大学	東 智子	熊本赤十字病院
喜多 里己	日本赤十字看護大学さいたま看護学部	小林 尚美	京都第一赤十字看護専門学校	東野 督子	日本赤十字豊田看護大学
監事		小林 洋子	日本赤十字豊田看護大学	松澤由香里	北見赤十字病院
小森 和子	総合大雄会病院	小宮 敬子	日本赤十字看護大学さいたま看護学部	松永由紀子	福岡赤十字病院
田中 孝美	日本赤十字看護大学看護学部	小森 和子	総合大雄会病院	松本ゆかり	神戸赤十字病院
		迫田 綾子	日本赤十字広島看護大学名誉教授	間淵 元子	静岡赤十字病院
		佐々木敦美	北見赤十字病院	宮坂佐和子	長野県看護協会
		佐々木幾美	日本赤十字看護大学	村瀬 智子	日本赤十字豊田看護大学
		佐藤 千雪	八戸赤十字病院	村田 由香	日本赤十字広島看護大学
		下山 節子	NPO法人日本看護キャリア開発センター	森岡 薫	日本赤十字秋田看護大学
		新道 幸恵	看護キャリア支援塾	守田美奈子	日本赤十字看護大学
		菅原よしえ	宮城大学	山田 聡子	日本赤十字豊田看護大学
		関根 光枝	日本赤十字社医療センター	山本 美紀	日本赤十字北海道看護大学
		田口 実里	聖隷クリストファー大学	吉田みつ子	日本赤十字看護大学
		武井 麻子	Office-Asako	若林 稲美	はみんぐ訪問看護
		田中 孝美	日本赤十字看護大学		

委員会名簿

編集委員会	◎田村 由美 木村 勇喜	○吉田みつ子 吉田 和美	濱田真由美 小野 芳子	谷口 千絵 近末 清美	中川 典子	宗内 桂	木下真吾
広報委員会	◎原 玲子	庄野 泰乃	佐々木久美子	新田 純子	萩原 智代	竹内 貴子	
研究活動委員会	◎佐々木幾美	糸井志津乃	平木 民子	松尾 文美	松山 友子		
臨床看護実践開発事業委員会	◎川上 潤子	清田 明美	中村 滋子	楠見 和子	武田 美和	村田 中	伊藤 麻紀
国際活動委員会	◎伊藤 明子	ソルステインソンみさえ	関塚 美穂	池田 載子			
災害活動委員会	◎佐々木敦美 佐々木 綾	久保 祐子	内木 美恵	橋爪 朋子	根岸 京子	濱谷 寿子	吉田 るみ
歴史研究委員会	◎大林由美子 川嶋みどり（顧問）	○川原由佳里 （顧問）	村瀬 智子 竹下喜久子（顧問）	川西 美佐	力石 陽子 小森 和子（顧問）	石谷 操	

◎…委員長 ○…副委員長

第48回フローレンス・ナイチンゲール記章を受賞して

日本赤十字社バングラデシュ首席代表/事業管理責任者
日本赤十字社医療センター 国際医療救援部/看護部 苫米地 則子

この度、栄えある第48回フローレンス・ナイチンゲール記章を賜り、大変恐縮するとともに、まだまだこれからも精進するようとのメッセージととらえております。受賞決定の知らせを受けたのは、派遣のためにバングラデシュに入国し、まさにホテルで自己隔離の真っ最中でした。メールによる知らせと、祝電をいただき、直接お受けできないもどかしさを感じながら、特に派遣元である日赤医療センターではコロナ対応に奔走するなか、もしかしたら明るいニュースとなったのではないかと日本を離れながら思いました。今回の受賞の理由として、2020年、新型コロナウイルス感染症パンデミックのその極めて初期における、ダイヤモンドプリンセス号での日赤救護班の統括を担ったこと、またこれまでの国際赤十字における紛争・災害地域での活動が挙げられます。これには、諸先輩方からのご指導、活動に際しての周囲のバックアップ、そして現場で受入れてくださった仲間からの支えがあったのことに認識しております。心より感謝いたします。現役の看護職として今後ともさらなる成長を目指し努めてまいります。本当にありがとうございました。



©Atsushi Shibuya/JRCS

明治30年から125年間の看護師養成が幕を閉じる

長野赤十字看護専門学校 小林 由枝

長野赤十字看護専門学校は、令和4年3月で閉校が決まりました。明治30年（1897年）に公立病院に依託し看護婦養成を開始してから、125年になります。明治32年には、日本赤十字社長野支部事務所と同じ敷地に寄宿舎（教場含む）ができ学習・生活をしていました。全寮制では、佐野常民が常に看護婦たちに求めていた戒めとして看護学教程の序論にも書かれた赤十字看護婦が守るべき心得十ヶ条（のちに改訂され救護員十訓）を基に、日々上級生から指導を受け赤十字の看護婦としての思想・精神が養われたと思います。全寮制でなくなった現在は、赤十字の教育を受けた教師が、授業のみならず学校生活の中で訓育してきました。

本校は、日本赤十字社長野支部準備看護婦教場・日本赤十字社長野赤十字病院救護看護婦養成所から長野赤十字看護学院・長野赤十字高等看護学院・そして現在の長野赤十字看護専門学校と名称を変え、卒業生は、第1回生から最後の113回生で3,440名になります。戦時救護員補充整備の必要から速成看護婦・臨時救護看護婦・救護看護人の育成や看護婦講習生の育成を含めると、養成数は4,078名になりました。

長い歴史に幕を閉じることは苦渋の決断でしたが、将来に向けた看護師養成の在り方等について協議を重ねた結果の決定でした。これで20年前には全国に35校あった赤十字看護専門学校が11校となります。

今は、最後の学生が全員卒業・国家試験合格することを願い、日々指導を重ねています。



寄宿舎前で担架訓練



寄宿舎で食事準備



12月行事 野沢菜漬け

新型コロナウイルス感染症への赤十字看護師の対応～広域派遣～

日本赤十字社医療事業推進本部看護部
副本部長兼看護部長 庄野 泰乃

日本赤十字社の新型コロナウイルス感染症対応は2020年2月、横浜に寄港したクルーズ船への救護班派遣から始まりました。その後も赤十字は第1波から第5派までのあらゆるフェーズにおいて各都道府県や市町村と連携し、帰国者接触者外来、PCR検査、ワクチン接種、患者の受け入れ、宿泊療養施設や近隣のクラスター発生施設への医療従事者の派遣等、医療支援に尽力しています。

2021年4月からは全国規模で同時災害的な様相を呈してきた感染拡大に対し、厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部より「医療体制確保に向けた広域的な看護師派遣」の要請が始まりました。同時に各都道府県知事からの地域を超えた看護師派遣要請・活動も始まり、赤十字の厚労省・各県要請含む広域看護師派遣者の派遣人数は、10月末時点で延べ444名となります。現在は東京都のコロナ専用病院へ石巻赤十字病院から看護師が派遣され、活動しております。

赤十字看護師の「困っている人を助けたい」という志と優れたスキルは各派遣先に赤十字精神の尊さを伝道したものと確信しています。



コロナの重症患者の病床が並ぶ
「レッドゾーン」でミーティング中の派遣看護師



防護服の着脱について
派遣先の師長より説明を受ける派遣看護師

©Atsushi Shibuya/JRCS

要請先（派遣先）	厚生労働省 （クルーズ船および一時滞在施設）	厚生労働省 （医療体制逼迫地域赤十字施設外）	全国知事・ 赤十字ブロック間
派遣元医療施設	52施設（重複あり）	14施設	9施設
派遣要員数	264名（医師等含む）	24名	21名

令和3年10月8日現在

第22回日本赤十字看護学会学術集会を終えて

第22回日本赤十字看護学会学術集会
会長 鎌倉 やよい

地球温暖化による気候変動、ウイルスの感染拡大など、私たちは、日常の暮らしを脅かすリスクに晒されています。第22回学術集会は、「あたりまえの日常を護る：未来共創を目指す社会への貢献」をテーマに、①災害を予防するために何ができるのか、②看護学の基盤となるケアサイエンスに如何に貢献するのか、の2つの視点から企画し開催いたしました。準備の途中、緊急事態宣言のためにWeb開催に切り替えましたが、順調に、会長講演、特別講演、3教育講演をオンデマンドで、3シンポジウム、口演17題と示説24題の発表、6交流セッションをライブで配信いたしました。262名のご参加を得て、会員相互の交流が実現し、多くの示唆を得ることができました。ここに、厚くお礼申し上げます。



第23回日本赤十字看護学会学術集会に向けて

第23回日本赤十字看護学会学術集会
会長 大沼 まゆみ

ご挨拶

第23回日本赤十字看護学会学術集会会長を拝命いたしました日本赤十字社清水赤十字病院看護部長の大沼まゆみでございます。

100年振りに人類が経験する2度目のパンデミック“COVID-19感染症”は医療をはじめ現代の人々の常識を大きく変化させました。失ったものもたくさんありますが、機械化、デジタル化などによるコミュニケーション技術の進歩など学んだことも少なくありません。

第23回学術集会ではCOVID-19感染症との2年以上にわたる戦いにおいて看護教育そして医療現場がどのようなものであったか振り返り総括して、今後起こり得るであろう新興感染症への備えを議論することにより教育・医療・介護・福祉それぞれの立場で共有できることを目指しています。

ICTを駆使してハイブリッド開催とし、全国の会員の皆様はもとより、様々な分野の方々に赤十字の看護や活動を発信したいと考えております。

第23回学術集会への多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます。

NEWS LETTER The Japanese Red Cross Society of Nursing Science Vol.19, 2021. 日本赤十字看護学会ニュースレター 第19号 2021年11月発行

- 発行 日本赤十字看護学会 広報委員会
東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護大学内
- 学会ニュースレターは学会ホームページからダウンロードできます。
<https://plaza.umin.ac.jp/jrcsns/publication/>
- 学会ニュースレターに関する皆様のご意見・ご感想をお待ちしています。
hara@rcakita.ac.jp
t-takeuchi@rcctoyota.ac.jp までお願いします。

●編集後記

今年度、本学会の役員体制が替わり新たなスタートを切りました。今年は、コロナ禍2年目と続く中、無観客による東京オリンピックの開催、新型コロナウイルス感染拡大による医療提供の逼迫、大型会場や職域におけるワクチン接種等、歴史的な動きがありました。本ニュースレターにおいても、コロナ関連の日赤看護師の活動等を紹介しています。今後、ポスト・コロナ時代を見据えての取り組み等の情報も提供できればと思います。(原 玲子)